

り上げた。

〔実験布地〕

- |            |          |        |
|------------|----------|--------|
| ① ブロード     | ② タッサー   | ③ キャラコ |
| ④ キャンパス    | ⑤ コーデュロイ | ⑧ 麻    |
| ⑦ 富士絹      | ⑧ ウール    | ⑥ レイヨン |
| ⑩ スパン・レイヨン |          | ⑪ ビニロン |
| ⑫ アセテート    | ⑬ アミラン   |        |

〔使用蠟〕

- |         |       |
|---------|-------|
| ① パラフィン | ② 白蠟  |
| ③ 蜜蠟    | ④ 調合蠟 |

〔実験方法〕

- (1) 布地を精練した後 1×10cm の大きさに裁断し、下より 2cm の所に浸漬線を記す。
- (2) 蠟の温度を 130°C まで昇温し、布地を 10 秒間浸漬する。以下 5°C の間隔で、凝固点附近まで行う。
- (3) 滲透距離を測定する。
- (4) 浸漬線直下の蠟層の厚さと、浸漬線直上の厚さを測定する。
- (5) ガラス棒に巻き取り、クラックを入れる。
- (6) Rapidogen にて染色し、発色後脱蠟する。

以上の実験を室温 30°C, 25°C, 20°C にて行い、蠟の冷却曲線を測定し、各々の布地に適した蠟材の種類、外気温の相違による蠟の適温、蠟層の厚さ、防染能、クラックの状態について考察した結果を発表する。

## \* 9 蠟染の科学的考察

広島女子短大 水野上与志子

前回の発表においては、蠟材の科学的特質に関する問題を取り上げたが、今回は、各種繊維の布地における、蠟の滲透、防染能、クラックの状態に関する実験を取